



北京市高等教育精品教材立项项目

中日同声传译教材系列

中日同声传译 背景知识储备训练

社会、经济篇

总 主 编：邱 鸣
副总主编：杨 玲
主 编：侯 越
编 者：侯 越 谢立群



外语教学与研究出版社





北京市高等教育精品教材立项项目

中日同声传译教材系列

中日同声传译

背景知识储备训练

社会、经济篇

总主编：邱 鸣

副总主编：杨 玲

主 编：侯 越

编 者：侯 越 谢立群



外语教学与研究出版社

北京

图书在版编目 (CIP) 数据

中日同声传译背景知识储备训练. 社会、经济篇 / 侯越主编; 侯越, 谢立群编. —
北京: 外语教学与研究出版社, 2014.1
中日同声传译教材系列 / 邱鸣主编
ISBN 978-7-5135-4005-6

I. ①中… II. ①侯… ②谢… III. ①日语—口译—高等学校—教材 IV. ①H365.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2014) 第 011097 号

出版人 蔡剑峰
责任编辑 田秀娟
封面设计 高 蕾
版式设计 吕 茜
出版发行 外语教学与研究出版社
社 址 北京市西三环北路 19 号 (100089)
网 址 <http://www.fltrp.com>
印 刷 紫恒印装有限公司
开 本 787×1092 1/16
印 张 15
版 次 2014 年 2 月第 1 版 2014 年 2 月第 1 次印刷
书 号 ISBN 978-7-5135-4005-6
定 价 36.00 元

购书咨询: (010) 88819929 电子邮箱: club@fltrp.com

外研书店: <http://www.fltrpstore.com>

凡印刷、装订质量问题, 请联系我社印制部

联系电话: (010) 61207896 电子邮箱: zhijian@fltrp.com

凡侵权、盗版书籍线索, 请联系我社法律事务部

举报电话: (010) 88817519 电子邮箱: banquan@fltrp.com

法律顾问: 立方律师事务所 刘旭东律师

中咨律师事务所 殷 斌律师

物料号: 240050001

总序

翻译工作在当今的全球化时代里已超越了单纯的语言转换这一层面，在政治、外交、经济、社会、文化等各个领域的国际交流中越来越彰显出其不可替代的特殊地位。与此同时，翻译产业也正进入一个日益专业化、规模化并迅猛发展的全新时代。在这一背景下，2006年教育部正式批准高校设置翻译专业本科（BTI），2007年国务院学位办批准设置翻译硕士专业学位（MTI）。而日语、法语和俄语等非通用语种MTI在2009年也相继获批。截至2013年，全国已有49所高校设置了BTI，更有多达159所高校获得了MTI的招生资格，其中有近30所高校开设了日语MTI。可以预见，日语翻译人才培养的体系化、专业化、规模化及其市场化走向将成为今后备受关注的课题。

然而，包括日语在内的非通用语种的翻译专业，从专业设置、人才培养方案、课程体系、教材到师资队伍建设和目前均处于建设不够完善的阶段。教材，特别是口译教材的编写一直处于比较滞后的状况。以日语为例，目前的教材大多都是单本教材，形式也多集中于素材训练，教材的结构、内容和形式与人才培养的专业化及课程设置等方面缺乏系统性的呼应，尤其鲜见在口译技能技巧、口译实务演习、笔译、听译以及背景知识等方面成体系的系列性教材。作为日语翻译学科建设的一个环节，出版一套融理论、训练方法及实务演习为一体的中日口译教材已成为中日翻译界及中国日语教学界共同的期待。

早在20世纪80年代中期，北京第二外国语学院日语学院就在研究生阶段设立了“翻译理论与实践”方向，2002年又开始了“口译”“笔译”分流的专业翻译人才培养的探索。从2005年开始，日语学院率先在国内高校日语专业领域内开设了本科翻译方向同声传译班。北京第二外国语学院也于2009年成为了第一批获批设置非通用语种翻译硕士专业学位的高校。在此后几个周期的培养过程中，人才培养方案、课程体

系、师资队伍以及教学环境建设已日趋完善与成熟,教材建设的条件也日趋完备。为了打破国内高校日语教材匮乏的现状,完善口译人才培养教学体系,日语学院以翻译教学一线的教师团队为编写主体,于2009年开始着手《中日同声传译教材系列》项目的研发与编写。

《中日同声传译教材系列》于2010年获批北京市高等教育精品教材立项项目。系列教材包括《中日同声传译技能技巧训练》(上下册)、《中日同声传译实务演习》(日译中、中译日)、《中日笔译实用技巧训练》(上下册)、《中日同声传译听译实践训练》(上下册)、《中日同声传译背景知识储备训练》(自然、文化篇和社会、经济篇)以及配套的学习辅导用书共计18册。教材以日语翻译专业或日语专业翻译方向的本科学生、普通高校日语专业的“口译”“笔译”“同声传译”等课程的学习者、翻译硕士专业学位学生以及正在从事或有志于从事翻译事业的社会读者为授课对象,学习者需具备中级以上日语水平,即日语新闻能听懂60%以上的内容、新日语能力测试N2级以上水平。

本套系列教材的主要特点在于:

第一,创新性及体系性。如果将以往的中日同声传译教材称为教学翻译的一部分的话,那么本套教材则是基于翻译教学的需要而编写的专业教材。如《中日同声传译技能技巧训练》集理论、技巧及实践于一体,含口译(同声传译)必备的技能技巧共20余项,技能技巧的组织排列从易到难、循序渐进,内容涉及众多专业领域与热点话题,训练时所使用的语言单位也从词汇、短句、段落到语篇,充分体现了在技能技巧训练上的专业性、系统性、科学性与体系性。

第二,实战性及职业性。本套系列教材注重双语能力、技能技巧与专业领域知识的高度契合,如在《中日同声传译实务演习·日译中》《中日同声传译实务演习·中译日》中强调口译实践中的译前准备,在实训前先导入相关领域的专业词汇、短句等热身练习作为译前准备,然后再按照素材的难度、长度、专业性等逐步进入实务演习,充分体现了口译训练的实战性。尤其在最后一课“模拟会议传译”中导入了翻译教学中“项目进课堂”的理念,在课堂教学中除素材训练外,还引入了“项目承接、会议日程及相关事务沟通、会议资料沟通、会议内容的译前准备、现场确认、译员间传译、传译评价”等环节,真正让学生从会议传译的全过程去模拟和体验同传。这种涵盖译前、译中、译后的口译实务过程的教学模式不仅能综合展示学生的语言、技能技巧与相关背景知识,同时还能让学生真正体验到接近实务的口译流程,并培养口译现场的适应能力与应变能力。

第三,对翻译过程及翻译思维、翻译意识训练的凸显性。本套系列教材的各分册教材无论从素材的组织、语言单位的排列、训练方法的设计等方面都充分体现了对翻

译过程、翻译思维、翻译意识以及翻译习惯的重视、培养和训练。同时，教材还部分涵盖了译员职业素质和职业道德培养的相关内容，体现了对专业口译译员培养的体系性、综合性和有效性。尤其是《中日笔译实用技巧训练》中对逻辑思维、信息处理的训练和对“笔译和口译”关系的定位，《中日同声传译听译实践训练》和《中日同声传译背景知识储备训练》中对“听和译”“背景知识和译”的关系的定位，都无不体现了这套教材的上述特点。同时，素材和翻译技能技巧以及专业领域知识相融合的训练方法，也弥补了目前教材中常见的素材和技能技巧训练脱节的不足。

第四，系列教材的实用性。本套系列教材的结构、组织以及教材的难易度，都体现了教材的实用性。不仅口译、笔译教材单独成册，在《中日同声传译技能技巧训练》与《中日同声传译实务演习》中同样涵盖了日译中与中译日的内容，系列教材既独立又互为补充；从整体来看，还包括《中日同声传译听译实践训练》与《中日同声传译背景知识储备训练》，融翻译技能技巧、素材、实务演习和专业领域知识为一体。除《中日同声传译听译实践训练》以外，每一本教材又分为主教材和学习辅导用书，学习辅导用书中还提供了课程安排表，不仅便于学生使用，还为教师教学提供了便利的教案参考。另外，除《中日笔译实用技巧训练》之外，主教材均配有MP3光盘，适于读者进行自主学习或自我训练。在遵循系列教材的内容进行学习和训练，并能有效完成学习任务的前提下，可以达到国家人社部翻译资格考试（CATTI）中口笔译实务三~二级的水平；本科学习者可达到报考翻译硕士专业学位的水平。

本套教材在编写过程中得到了诸多业界同仁、精英的指导和教诲，也得到了北京第二外国语学院日语学院所有教师给予的鼓励与帮助，特别要感谢高木章江等外籍专家对本书的认真审订。同时对外语教学与研究出版社在本书编写、出版之际给予的大力支持，以及责任编辑在出版过程中付出的辛勤劳动致以谢忱。衷心感谢书中所使用的部分音频、文字素材的版权方及会议组织者允许我们在教材中使用这些资料。此外，这套教材得以成功问世，还得力于北京市优秀教学团队、国家级教学团队“翻译方向课程教学团队”的支持。

编写一套符合翻译专业需求的中日同声传译教材是我们的目标。我们期待得到广大使用者以及各界专家的宝贵意见，我们将不断完善、不断前进，为全国中日口译、同声传译学习者们提供一套最为优秀的教材。

《中日同声传译教材系列》总主编 邱鸣

2013年3月1日



教材使用指南

适用课程

可用于大学本科基础阶段，即一、二年级的中日同声传译方向背景知识课，也可用于大学日语专业本科二、三年级的日本概况课。

教材构成

《中日同声传译背景知识储备训练 自然、文化篇》主要涉及日本的自然、文化与教育方面的知识；《中日同声传译背景知识储备训练 社会、经济篇》主要涉及日本的社会、政治与经济方面的知识。

教材由主教材和配套的学习辅导用书组成。

课程安排

《中日同声传译背景知识储备训练 自然、文化篇》以及《中日同声传译背景知识储备训练 社会、经济篇》配合目前大部分高校 18 个教学周的设置，考虑到阶段复习和期末复习的时间，均由 16 课组成。根据每个学校的具体情况，每册教材可使用一个学期，也可使用一个学年。

配套的学习辅导用书是按照使用一个学年（每周 2 课时）的教学进度编排的。

基本理念和特色

(1) 突出重点，选择具有代表性的专题进行讲解，引导学生深入理解，形成系统化思维。在引导学生对日本的自然、文化、教育、社会、政治、经济进行宏观了解的基础上，使学生更加深入地了解日本社会。(2) 更加贴近现代日本的社会生活。(3) 发挥学生的主体性，培养学生搜集、梳理以及初步分析资料的能力。(4)

设置重点词语说明,使学生加深对重点语句的理解,从而提高学生的翻译能力。(5) 通过课后的练习题,梳理课文重点,拓展学生的视野。

使用方法

(一) 主教材的使用方法

主教材每课包括导入部分、专栏、课堂练习 3 个部分。导入部分是对本课所涉及专题内容的概括。专栏部分围绕本课所涉及的专题,从更加微观的角度对专题的内容进行拓展。课堂练习部分包括 4 个步骤:(1) Step 1 针对课文内容进行提问,目的在于检查学生对课文内容的理解程度。(2) Step 2 列出课文中出现的新词汇,以加深学生对特定词语及其社会文化内涵的理解。对于专业性较强的词汇,日语解释部分对其含义进行了一定的拓展说明,而译文部分仅给出该词的中文译文,不做进一步说明。(3) Step 3 通过引导学生自己动手查找资料,加深学生对课文内容的理解。(4) Step 4 为扩展练习,其目的在于提高学生的认识,让学生在更广泛的范围内对课堂所学内容展开思考。

上述(1)(2)(3)项内容为基本练习内容,(4)的扩展练习部分旨在引导学生深入思考,教师可根据本校学生的程度因材施教。

(二) 学习辅导用书的使用方法

学习辅导用书包括各课的课程安排、教学内容提示以及参考答案。课程安排对教学时间进行了设定,明确了学生在预习和复习中应该完成的任务,以促进学生学习自主学习。

目 录

第1課 日本人のコミュニケーション・スタイル	1
一、イントロダクション	2
二、コラム	5
1. しつけから見る日本人の人間関係	5
2. 高コンテクスト文化	7
三、練習問題	10
第2課 日本人の思考・行動様式	13
一、イントロダクション	14
二、コラム	16
1. 日本人の特質をどう認識するか	16
2. 日本社会の多元性	18
三、練習問題	21
第3課 日本の家族	23
一、イントロダクション	24
二、コラム	26
1. 家族形態の変化	26
2. 少子高齢社会	29
三、練習問題	33

第4課 日本人の社会関係	35
一、イントロダクション	36
二、コラム	39
1. いえ・むら・まち・コミュニティ	39
2. 密着した人間関係志向の減少	41
三、練習問題	44
第5課 日本社会の世相	47
一、イントロダクション	48
二、コラム	51
1. 若者の雇用問題	51
2. 男女の性別役割分業観	54
三、練習問題	56
第6課 日本人と世界とのかかわり	59
一、イントロダクション	60
二、コラム	63
1. 日本に暮らす外国人	63
2. 海外に暮らす日本人	65
三、練習問題	70
第7課 日本の政治	73
一、イントロダクション	74
二、コラム	76
1. 21世紀の日本政治	76
2. 中日関係	79
三、練習問題	81

第8課 政党と政治家	85
一、イントロダクション	86
二、コラム	90
1. 日本の政治家	90
2. 政と官の関係	92
三、練習問題	96
第9課 政治と日本人	99
一、イントロダクション	100
二、コラム	104
1. 若者と政治	104
2. 女性の政治参加	108
三、練習問題	112
第10課 日本の会社	113
一、イントロダクション	114
二、コラム	120
1. 会社の分類	120
2. 会社内の仕事	122
三、練習問題	125
第11課 会社の歳時記	127
一、イントロダクション	128
二、コラム	132
1. お盆休み	132
2. 忘年会	137
三、練習問題	142

第12課	サラリーマンの生活	145
一、	イントロダクション	146
二、	コラム	148
1.	サラリーマンの一日	148
2.	サラリーマンの一生	151
三、	練習問題	154
第13課	経済復興と経済大国への道	157
一、	イントロダクション	158
二、	コラム	163
1.	なぜ日本は高度経済成長を達成できたか	163
2.	驚異の高度成長を可能にした技術進歩	165
三、	練習問題	168
第14課	バブル経済及び経済低成長	171
一、	イントロダクション	172
二、	コラム	176
1.	バブルの到来	176
2.	平成不況の正体	180
三、	練習問題	185
第15課	日本経済と世界とのかかわり	187
一、	イントロダクション	188
二、	コラム	193
1.	日本の対外輸出	193
2.	中日貿易	196
三、	練習問題	201

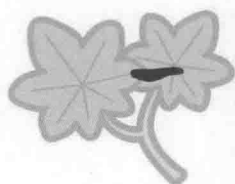
第 16 課 日本産業の可能性と新たな挑戦	203
一、イントロダクション	204
二、コラム	209
1. 海を越えるアニメの力	209
2. 極微の世界への挑戦——日本のナノテクノロ ジー産業	214
三、練習問題	217
日本史年表	219

中日同声传译背景知识储备训练

社会、经济篇

第 1 课

日本人の コミュニケーション・スタイル



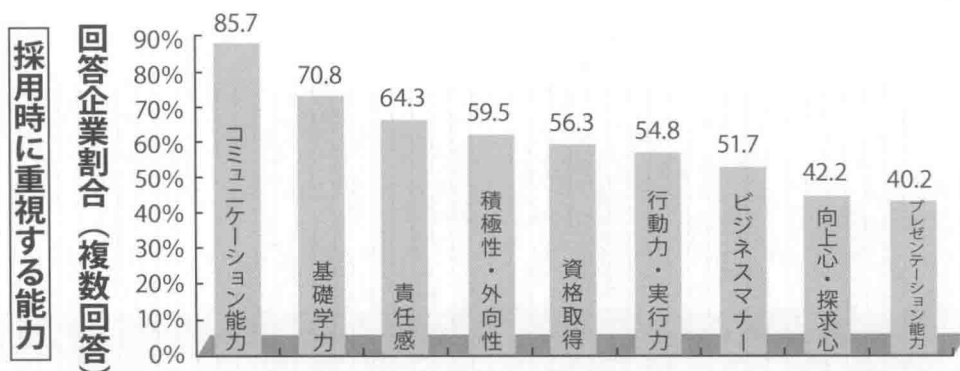
イントロダクション

(1) コミュニケーションの定義

段1 人間が社会生活をするうえでコミュニケーションは不可欠である。普通、「コミュニケーション」と言えば、多くの人が「会話」を思い起こすように、コミュニケーションとは、二人以上の人間が言葉を使って意思の疎通を行うものと一般には考えられている。しかし、実際には個人の内部で起きている心の動きもコミュニケーションの一つの形態である。



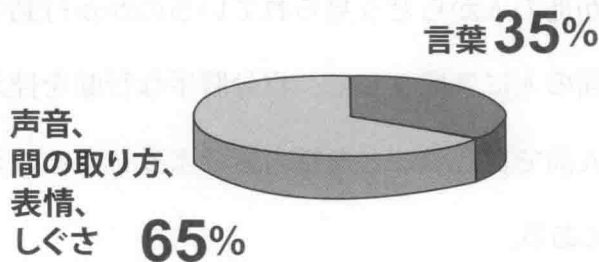
付録資料1 企業が新卒者採用の選考の際に最も重視する要素



段2 コミュニケーションとは、「私たち人間が自分自身の内部体験や外界からのさまざまな刺激に対して、自分なりの意味を見出そうとして努力する創造的なプロセス」である。例えば、外の景色を見て、「今日はいい天気だな」と心の中で思ったこともコミュニケーションである。何かに意味づけするプロセスが人間の内部で行われる状態は「個人内（自己内）コミュニケーション」であり、その内部状態（意味づけしたこと）を他の人と共有し分かち合おうと努力するプロセスは個人間（対人）コミュニケーションである。コミュニケーションの「意味づけ」のきっかけになるものは、言葉だけではない。相手の視線、ジェスチャー、体の動き、対人距離、衣服など、言葉以外のシンボルである非言語コミュニケーションも大きな部分を占めている。

付録資料2 非言語コミュニケーションの割合に関するバードウィスティルの説

相手に伝えるメッセージ量



レイ・L・バードウィスティル

Ray L. Birdwhistell, *kinesics and Context: Essays on Body Motion Communication*, University of Pennsylvania Press (1970)

(2) 日本人のコミュニケーション・スタイルの特徴

段3 日本人のコミュニケーション・スタイルにはいくつかの特徴が見られる。

それは三者関係の構造、高コンテクスト文化、人間関係重視などを含む。

段4 大坪一夫は日本人の人間関係を「内」「よそ」「それ以外」の三つのグループに分類した。それは言葉の使い分けによって明確に表される。「内」に対しては上下の意識が働き、例えば会社内の電話であれば「社長は、いまいらっしゃいません」と答えるが、「よそ」に対しては謙譲語を用い、よその会社からかかってきた電話に対して秘書は「社長は、ただ今おりません」と答える。「利害関係のない他人」に対しては、電車の中で足を踏んだ相手に対して「人の足を踏んでおいて、謝りもしないとはなんだ」ともっとストレートに怒る、というのはその表現である。

段5 日本社会では、人間関係を重視し、その集団の一員であることが大切にされてきた。自分が他の人からどう見られているのかが行動の規範になっている。日本人は世間の人に気配りして、自分勝手な行動を控え、他の人に笑われないように、人前で目立つことを極力避けようとするコミュニケーション行動をとる傾向にある。

段6 日本人のコミュニケーションは、言葉だけでなく、文脈・意味背景から情報を読み取ることが重要な役割を果たすため、高コンテクスト文化と呼ばれている。明確に言語で表現するよりも、非言語表現や微妙な言語表現による意思伝達を行う傾向があり、相手に「察し」を期待することがそのひとつの現れである。